

No.	15-6-3	場所	高森町 南大島川下流	次世代への継承キーワード	伝聞・言い伝え / 災害発生頻度 / 地域コミュニティ
名称	①飯田線から下流の南大島川の氾濫（対岸は座光寺） ②飯田線下流 200m付近の民家の被災			河川	南大島川
災害現象	洪水氾濫・家屋の被災			支流	
補足事項					

高森町吉田地区では、大島川から押し出された土砂が出砂原集落を埋めた。巨岩を積み上げた長さ約 500mにわたる惣兵衛堤防は、200 年以上もこの地域を守ってきたが、竜の背のごとく盛り上がった天竜川は堤防を乗り越え、地上部のほとんどが押し流された。田沢川は鉄砲水により下流一帯が一面河原となり、11 名の犠牲者を出した。

●体験談：〇〇

昔の人の言葉に「油断大敵」という事がある。私達は小さい川だと思って、又大水も出た事がなかったので油断していたのがいけなかった。

（中略）

赤茶の大水は床の上までつかってくる。お隣りへお米を預けようと庭へ下りた。もう水は私の腰までついて来た。お米をかかえた私に濁水の大波は「ガブリ」とおしよせて来た。私は波に押し倒され、お米を水の中に落としてしまった。夢中で立上りお米をつかまうとしたら、隣のおじさんが「こっちへよこせ」と持った下さった。隣のおじさんと私と娘と三人で、他の物も出そうと家の中へ入り、裏口を見たとたん大声で叫んだ。「逃げよ」と言う間もなく、おじさんに続いて飛び出そうとしたが、山崩れですっかり川はせがれて、石の流れる音、立木のザアザア流れるすごい音と共に私の家は倒れた。私は「あっ!」と思ったとたん気が遠くなった。娘が大声で「死んでは駄目だ」と云う声がかすかに聞こえた。目を開けて見たら、私と娘は無ざん家の下敷きになっていた。近所の方々がかけつけて、私と娘が出られる様に穴を掘って下さった。やっとぬけ出すことが出来たその時私の持っていた物は、穴のカゴ一つでした。

（「災害の市田郷」より）

記 録



飯田線から下流の南大島川の氾濫。下流から上流を写す。対岸は座光寺



半壊した住宅。また、飯田線の下流 200m 付近隣接していた住宅は全壊した。

出典	「36 災害 20 周年記念 災害の記録」p.16/「災害の市田郷」p.83
備考	左の写真の中に右の民家が小さく写っている

No.	15-6-3	場所	高森町 南大島川下流	緯度	35.534618
-----	--------	----	------------	----	-----------

名称	①飯田線から下流の南大島川の氾濫（対岸は座光寺） ②飯田線下流 200m付近の民家の被災	経度	137.867700
----	---	----	------------

地図 広域図



地図 詳細図



備考 上記地図に表示されている、黄色の区域は「土砂災害警戒区域」（通称：イエローゾーン）といい、土砂災害のおそれがある区域を指します。また、赤色の区域は、「土砂災害特別警戒区域」（通称：レッドゾーン）といい、土砂災害警戒区域のうち、建築物に損壊が生じ、住民に著しい危害が生じるおそれがある区域を指します。